

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：熊野中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
熊野中学校	12	297
熊野第一小学校	22	549
熊野第三小学校	14	264

(R4.11.1現在で記入)

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

昨年度の課題「ルーブリックの活用」「カリキュラムの内容レベルでの連携」、及び本中学校区の児童生徒の課題である「表現力」の育成を踏まえ、今年度の研究テーマを「地域を題材とした単元における表現力の育成～ルーブリックの活用を通して～」と設定した。系統性をもたせて地域を題材とした単元として防災・減災学習を取り入れること、その単元において昨年度作成した表現力のルーブリックを単元レベルに落とし込むことを今年度の研究のねらいとした。

(2) 資質・能力の設定について

各校での育成したい資質・能力をもとに、「メタ認知」「協働」「表現力」の3つの領域に整理した。【表1】

【表1】育成したい資質・能力

メタ認知		協働		表現力	
(一小)	(三小)	(一小)	(三小)	(一小)	(三小)
振り返る力 わかる・できる力	向上心 分かる・できる力	協働する力	思いやり	自分の考えを 表現する力	表現力
↓		↓		↓	
熊野中 自己分析 スキルアップ		熊野中 協働 前向き		熊野中 表現力 クリティカル シンキング	

また、昨年度の児童生徒アンケートから共通して、「表現力」に課題があることが明らかになったことを受け、それぞれの発達段階に応じて、どのような「表現力」を付けさせるべきかを検討して、【表2】のような「熊野中学校区で育成する『表現力』のルーブリック」を作成した。今年度においては、このルーブリックを開発した単元レベルに落とし込み、児童生徒に付けさせたい資質・能力として「表現力」を特に重点項目として設定した。

(3) 取組について

昨年度行った理論研修をもとに今年度は各小中学校において、生活科・総合的な学習の時間において、単元開発を行った。その際、各小中学校において、『『地域』を題材とする単元を開発すること（そのうち、必ず防災・減災学習を含める）、『『表現力』については、【表2】をもとに単元レベルのルーブリックを作成する』ことを共通認識とした。

【表2】熊野中学校区で育成する「表現力」のルーブリック

目安	【表現力】自分の考えをまとめ、言語表現し、他者に伝える力。
中3	自ら課題を設定し、解決に必要な情報処理を適切に行い、議論によって導き出した解決案を表現を工夫して発表するとともに、見出した解決案の具体的な実現を目指す。
中2	自ら課題を見つけ、解決に必要な情報処理を適切に行い、議論によって導き出した解決案を表現を工夫して発表するとともに、見出した解決案を多面的多角的に検証する。
中1	課題を多面的に捉えたうえで、目的に応じて情報を集め、話し合い、表現を工夫してまとめ、導き出した解決案を発表する。
高学年	自分の考えや調べたことなどを、相手や目的、意図に応じて、効果的な表現方法（資料を活用するなど）を選んで書き表したり、伝えたりしている。
中学年	自分の考えや調べたことなどを、相手や目的を意識して書き表したり、伝えたりしている。
低学年	気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどを、多様な方法（言葉、絵、動作、劇化など）で表現し、伝えている。

単元開発の段階では、各小中学校で行われた校内研修において、研究推進リーダーと研究担当教員が相互に参加し、各小中学校の開発単元の授業内容や研究の状況について情報交換を行った。

また、令和4年11月1日には3校合同の公開研究会を開催し、開発単元の授業を公開した。

各小中学校で児童生徒アンケートを実施して、今年度の変容を確認し、来年度の取組について検討した。

2 実践事例

(1) 熊野中学校

第2学年において、単元「マイ非常用持ち出しバッグをつくらう！」を開発した。概要は次の通りである。

<p>【単元の目標】 日頃から災害に備える意識を涵養し行動するとともに、災害時にお迅速に避難し、中学生の自分たちができる最大限の方法で命を守る行動をとることができるようにする。</p>
<p>【学習内容】 ①生徒の避難行動についてのアンケートから防災に備える際の課題を設定する。 ②避難行動訓練EVAGを行い、適切な避難行動についてシミュレートする。 ③非常用持ち出しバッグの内容を考え、自他の意見をふまえ、マイリストを作成する。 ④熊野町西防災センターの見学を通して、避難所についての理解を深め、マイリストについて、熊野町防災安全課職員と交流する。 ⑤④をふまえ、マイリストを更新し、グループごとに発表するとともに熊野町防災安全課職員からの助言を受ける。</p>

(2) 熊野第一小学校

第5学年において、単元「伝えよう！命の守り方」を開発した。概要は次の通りである。

<p>【単元の目標】 自然災害から命を守るために、様々な災害や命を守るための対策などについて調べたり、地域で活動している方や友達と協働して活動したりすることを通して、命を守るための方法や行動の仕方、防災・減災に取り組む人々の思いや願いを理解し、自分やみんなの命を守るために今後の防災・減災の在り方について考え、自らの生活や行動に生かすことができる。</p>
<p>【学習内容】 ①熊野町の生活を「防災・減災」の視点で振り返る。 ②自分たちを取り巻く防災について調査する内容や方法を検討する。 ③日本・広島・熊野町の防災について命を守るためにという視点から調査する。 ④調査によって収集した防災に関する情報を整理・分析する。 ⑤説得力をもって伝えるために、家族や地域の方に伝えたい具体的な内容を考える。 ⑥整理・分析したことをもとに、災害から「命を守る」ために大切なことを伝える。</p>

(3) 熊野第三小学校

第4学年において、単元「みんなで守ろう 大切な命」を開発した。概要は次の通りである。

<p>【単元の目標】 土砂災害から人々を守る活動について調べることを通して、町や地域の人が様々な協力をして対処してきたことや、災害に備えて様々な備えをしていることが分かり、学んだことを生かして自分たちの安心安全を守るために、自分たちができることを考え、発信することができるようにする。</p>
<p>【学習内容】 ①広島県や熊野町での自然災害について調べる。 ②土砂災害と人々の避難態について関心をもち、自分たちの命や暮らしを誰がどのようにして守ることができるのか学習課題を立てる。 ③熊野町の防災施設へ見学に行き、災害が起こった時どのような活動をして、命を守り、どのような備えをしているか熊野町防災安全課職員が聞き取り、災害に対して自分たちができることを考える。 ④自分たちが調べてきたことや考えたことを家族に伝えるためにまとめ、発表し、関心を高めてもらう。</p>

【個に応じた指導の充実】

熊野第一小学校で開発した単元において、公開した授業の「表現力」のルーブリックの例が【表3】となる。2段階のルーブリックとして、特にBの段階に到達することが困難な児童生徒に対して、どのような支援を行うことでBの段階に到達するかを想定し、手立てをルーブリックに明記した。

また、熊野第一小学校では校内研修において参観者で児童のワークシートを評価し、次時の指導につなげる取組を行った。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

今年度は各小中学校の各学年の生活科・総合的な学習の時間において、地域とのつながりを意識した学習を展開することが通して、地域を題材とした単元を開発することができた。特に防災・

【表3】「表現力」のルーブリック例（熊野第一小学校）

Aの例	Bの例	Bに到達させるための手立て
<p>・活動を通して学んだ防災・減災に関する内容やこれからの生活について、相手や目的、意図に応じた情報を伝えるために、筋道を立てて思考を深め、資料を活用するなど効果的な表現方法を選び、自分たちからの思いや願いも含めて伝えている。</p>	<p>・活動を通して学んだ防災・減災に関する内容やこれからの生活について、相手や目的に応じた情報を伝えるために、筋道を立てて思考を深め、資料を活用するなど効果的な表現方法を選んで伝えている。</p>	<p>・相手意識や自分の考えを明確にするために、考えるための技法を用いて集めた情報を分析しやすくしたり、可視化して考えを伝えやすくしたりする。 ・安心して自己表現ができるような環境を作ったり、話し合う機会を何度も設けたりする。</p>

減災学習において、地域とのつながりを意識した学習を展開することができた。

それぞれの単元において、「表現力」のルーブリックを単元レベルで設定し、評価に役立てることができた。児童生徒に育成したい資質・能力としての具体的姿としての「表現力」を検討することが、児童への手立てを考えたり、ワークシートや発問を吟味したりすることにつながった。さらに、校内研究授業で児童生徒のワークシートや行動、発言などをもとに教員が児童生徒の評価やルーブリックの妥当性を協議することで、教員の評価力の向上にもつながった。

熊野中学校区全体において、育成したい資質・能力としての「表現力」についての児童生徒アンケートでは1学期では肯定的な評価をした児童生徒が78.3%だったが、3学期では80.1%となった。今後も継続して取組を進める必要がある。

(2) 課題

ルーブリックを活用して評価を行う際に、教員の想定を超えた児童生徒の実態があった。それらを把握し、しっかりと見とれるようにルーブリックの「Aの例」を今後も改善させる必要がある。

中学校段階では複数の小学校から入学するため、防災・減災学習において、重複する内容があった。中学校においては、生徒に学習した内容を振り返らせながら学習を進めたが、各小学校で学習する内容について詳細に検討し、中学校でさらに学習が深まるようにしていく必要がある。

(3) 今後の改善方策等

今年度、活用した「表現力」のルーブリックを児童生徒の実態や児童生徒アンケートの分析から実情に合わせ、改善していく。また、改善した「表現力」のルーブリックから単元ごとのルーブリックの策定・見直しも行う。

防災・減災学習においては、来年度取り組む内容について、小中学校で協議を行い、学習内容について検討を行う。

校区内の児童生徒が自信をもち、中学校3年生の段階において自分で設定した課題について、自ら情報を収集し、議論を通して、考えたことを自らの方法で表現できるように研究を進めていきたい。次年度はこれまでの取組をリーフレットにまとめ、公開していく予定である。